

幡中だより

あやめ

～since 1999～

第 324 号

令和 8 年 7 月 9 日
瀬戸市立幡山中学校



「また会おうね!」がつかない絆

～共に過ごし、共に育つ～

瀬戸市立幡山中学校長 梶田 明敬

6月半ば、6年目を迎える愛知県立瀬戸つばき特別支援学校との交流会を行いました。ところで、皆さんは瀬戸つばき特別支援学校がどこにあるかご存じでしょうか。愛・地球博記念公園瀬戸線沿い、愛知県赤十字血液センターの南側に位置する、令和元年度(2019年)に開校した新しい学校です。本校との交流は令和3年度から始まりました。当時はコロナ禍のためオンラインでの実施でしたが、徒歩30分ほどという距離の近さもあり、翌年からはお互いの学校を行き来しながら交流を続けています。

さて、最近よく耳にする言葉に「インクルーシブ教育」があります。難しく聞こえるかもしれませんが、簡単に言えば、「一人一人の違いを大切にしながら、誰もが共に学び、共に成長していく教育」のことです。幡山中学校でも、特別支援学級の生徒たちが自分の希望や力に応じて通常学級の授業を受けたり、部活動や学校行事に参加したりしながら、仲間と共に学校生活を送っています。

今回の交流会は、その輪をさらに広げる機会となりました。参加したのは、本校1組と1年生、そして瀬戸つばき特別支援学校の生徒たちです。初対面ということもあり、最初は自己紹介カードを見せながら名前や好きなものを伝え合いました。しかし、緊張からか会話はどこかぎこちない様子でした。続いた行った台風の目やボール運びリレー、ボール飛ばしなどのゲームでは、少しずつ笑顔が増えていきます。活動を通して、お互いの得意なことや苦手なことを自然に理解し、「大丈夫?」「こっちだよ」と声をかけたり、相手に合わせてペースを調整したりする姿も見られるようになりました。そしてお別れの時間です。つい数時間前までの緊張した表情はすっかり消え、「また会おうね」「楽しかったね」と名残惜しむ声があちこちで聞かれました。その姿に、私たちも温かな気持ちになりました。

インクルーシブ教育の第一歩は「一緒に過ごし、お互いを知ること」であると思います。今回の交流会は、その大切さを改めて感じる機会となりました。次回は3学期に本校で開催される予定です。さらに絆が深まることを今から楽しみにしています。



体育祭

6月4日(木) 午前
テーマ:「輝進~きらめく今を駆け抜けろ!~」

1学期最大の生徒会行事である「体育祭」が行われました。当日は雲が多く過ごしやすい気候でしたが、各種目で熱戦が繰り広げられました。多くの保護者・地域の方々にもお越しいただき、全力で取り組む生徒たちの姿を間近に感じていただけたことと思います。ここで培った団結力を、今後の学校生活で生かしてほしいと願っています。



1年生・1組 瀬戸つばき特別支援学校 交流会

6月12日(金) 午前
瀬戸つばき特別支援学校

今年度も、1年生と1組生徒が南山口町にある「瀬戸つばき特別支援学校」へ出かけ、中学部の生徒との交流会を行いました。自己紹介やゲームを通して打ち解け、活発に交流する生徒の姿が見られました。次回は1月に幡山中学校で行う予定です。



中総体 瀬戸・尾張旭地区大会

6月27日(土)~
瀬戸市・尾張旭市 各会場

3年生最後の大会となる地区予選大会が、本格的に始まりました。初日は天候不順に見舞われ、屋外競技を中心に日程が順延となった種目もありました。屋内競技では、すでに上位大会への出場を決めたチームもあります。7月からは文化部のコンクールも始まっていきます。引き続き、応援をお願いいたします。

